藤田嗣治著「腕(ブラ)一本・巴里の横顔」を読む

－勉強法を考える－

勉強法

人間というものは唯々偉人の大成を見て直ちにそれを真似すべきものではない、その人の困窮を思い、また自己と同年輩の時代のその人の経路を考える時は、決して何も私共はあわてて仕事をするべきものでなく、気永く飽かずうまず、努力して最後に大望を成就する様に進まなければならぬものである。往時画家といえば、もっとも気楽な職業の様に考えられていた時代もあった。画家とならんには身体の健康はもちろん意志堅固につまり「健全なる身体には健全なる精神が宿る」で、体力も十分拵えなければならぬ最も難業であるのである。私も青年時代柔道を学び、外国に於てまたボックスを修業し、種々のスポーツにも一通り顔を出して先ず健康体からの養成を努めた。果して私は耐忍力を充分に修養し得た。

勉強時間にしても普通十四時間、仕事を励む際には十八時間位筆を持つ日が続いた。朝十時から午後一時まで描く。一時から二時までの間に昼食し十五分間昼寝し更に二時から七時まで描く、九時迄の間に夕食をとって休み更に翌朝の四時、時には五時まで画いて、ようやく寝に就き十時まで約五時間睡眠するという課定であった。しかし吾が国は湿気の多い関係で少なくとも六時間の眠りの必要があって健康を害する様である事も体験で知った。パリという処は大陸的の乾燥した好気候の土地で勉強するには非常に都合が好かった。　P.37 ～ 38

我々は皆日本人である、俺は日本の為に尽す、こう言うものの、それは当前の話であって、ことさら自分だけが日本の為に忠義をするとか等ということは言う必要のない事ではないか、銘々各自が自己の仕事に懸命に命を捧げて一業に励めば、大業を成就し、人に敬われ人に憧われ、財も集まって来るので、それが国のためになるのであって、自分は忠義をするために忠義をしたのではなく、業を励んで真実国の忠義に知らぬ内になったというようなことの方が、私は面白いと考えた。また本当の事だと思った。　P.39

藤田嗣治著「腕(ブラ)一本・巴里の横顔」講談社、文芸文庫 2005 年 2 月 10 日刊

－ 2006 年 10 月 8 日記－